

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

| 達成度(評価) | |
|---------|---------------|
| A | : 十分達成できている |
| B | : おおむね達成できている |
| C | : やや不十分である |
| D | : 不十分である |

| | |
|----------------------|---|
| 学校名 | 白石町立北明小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 学力向上についてはマイプランを共有し、授業相互参観やミニ学習会など教師の学びの場を設定することにより、基礎的・基本的な学力の定着が図られ、学習状況調査において良い結果が出た。授業力の向上を意識した取組の成果だと捉える。 保護者アンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。 本校児童の課題である表現力の向上、自主的な活動についても、教師が課題を共有し、解決の方策を考え取り組んでいった。交流活動の意識的な取組により表現力は改善してきている。しかし、自主的な活動については課題が残った。児童が活躍できる場作り、活動内容の検討などを進めていく必要がある。 業務改善・教職員の働き方改革の推進については、会議時間の短縮・マイ定時退勤日のボードを準備するなど意識化を図った。意識の向上が見られ、時間外4.5時間以上勤務者は減ってきている。校時や行事内容の見直しなど業務改善の手立てをとるとともに、職員が充実感を持って働ける職場づくりが必要である。 学校運営協議会を中心に、子供達を地域で支えていく体制ができている。さらに地域力を生かし、保護者とともに教育活動を行っていくためにも、保護者との情報共有、学校の取組の発信などを進めていく必要がある。 個に応じた教育、特別支援教育には保護者、学校関係者評価においても高い評価を得ている。児童に寄り添い、全職員で見取り、情報共有することにより今後も、個に応じた支援・指導を充実させていく必要がある。 |
| 2 学校教育目標 | <p>学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ輝く北明っ子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ かしこく(知) : 確かな学力・知恵を磨く ◇ やさしく(徳) : やさしい心・人と関わる力を培う ◇ たくましく(体) : 健康で元気な態度を育む |

| | |
|-------------------|---|
| 3 本年度の重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> 〇生き生きと学習に取り組み、自分の考えや思いを伝え合い、学び合う児童の育成。 〇人と協調し、人を思いやる心の育成〇人と関わる力の育成〇感謝する心と学校や郷土を愛する心の育成 〇望ましい健康生活の習慣化、学校体育の推進〇食育の推進と性教育の実施〇防犯・安全教育の推進〇特別支援教育、教育相談の充実 |
|-------------------|---|

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

| (1) 共通評価項目 | | | 最終評価 | | |
|--------------------|--|---|---|---------|--|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 達成度(評価) | 実施結果 |
| | | | | ●学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 〇全職員による共通理解と共通実践 〇様々な場での交流活動の充実と表現力の向上 |
| ●心の教育 | <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> 〇道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施し、意識を高める。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・「たすきコーナー」(児童の認め合い)や道徳コーナーを効果的に活用し、児童の自己肯定感を高める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が90%以上であった。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修を、年間を通して計画的に実施することができた。 ・道徳コーナーで、異学年交流を行ったことで、感じ方や考え方が広がった。 ・6月に人権宣言書を発表し、12月にふり返りを行ったことで、年間を通して人権に対する意識が高まった。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 〇いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月心のアンケートや、教育相談週間の実施により児童の実態把握に努める。 ・いじめの対応についての研修・会議を長期休業中および随時行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・かがやく北明っ子教師のふり返りで、いじめ防止等について、組織的に対応ができていると回答した教員が、前期後期ともに100%だった。 ・児童の声に耳を傾ける時間を増やすため、今年度は、教育相談週間に年に1回から2回に増やした。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ◎目標の実現に向けて努力し、充実した学校生活をおくろうとする気持ちを高める教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ◎自分の目標やめあてに向かって努力していると回答した児童 80%以上 ◎学校生活が楽しい、充実していると回答した児童90%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の時だけでなく、様々な活動の折には目標やめあてを立て、それを振り返る活動を通して、自分自身の成長を感じられるようにする。 ・児童が活躍できる場を多く設定して自己有用感を高めたり、友達と関わる活動を多く仕組んだりして、共に活動することのよさを感じられるようにする。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・最終のアンケート結果では、95%の児童が「自分の目標やめあてに向かって努力することができた」と答えていた。振り返りの仕方も、視点や考えたり系統性を持たせたりすることで学年が上がることに深めていけるようにしたい。また、毎月行っている心のアンケートでは、全校平均で92%の児童が充実した生活を送ることができていた。保護者への啓発ができていなかったため、来年度は取り組んでいく。 |
| ●健康・体づくり | <ul style="list-style-type: none"> ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | <ul style="list-style-type: none"> ③「健康に食事は大切である」と回答した児童95%以上 ・早寝早起き朝ごはんアンケートで、「朝ごはんを食べ続けている」と回答した児童95%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・給食委員会による毎日の放送や給食集会を通して食に対する意識を高める。 ・栄養職員と連携し、各学年食育の授業を1時間実施する。 ・早寝早起き朝ごはんアンケートを年2回実施する。事前に養護教諭によるミニ指導を行い、生活習慣を整えることの意識を高める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・11月の「早寝早起き朝ごはん」アンケートでは、3級ともに90%以上に到達している。特に「朝ごはん」については、6月11日にも90%と高かった。保護者への啓発として、アンケートへ書かれた「おうちのほう」の声も活用して紹介した。 ・各学年の食育の授業については、「米作り」みそづくりに「運動会」等の体験学習や家庭科等で実施した。 ・給食委員会による授業参観で、全校児童に給食のマナーや発酵食品の栄養についての発表をし、給食への意識を高めた。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 〇安全に関する資質・能力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 〇登下校において、自分で安全に気を付けていると回答した児童80%以上 〇避難訓練において、自分で考えて行動できたと回答した児童80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・登校の様子を振り返りを毎学期1週間行わせ、自分で安全に気を付けて登校する意識を持たせる。 ・避難する際の注意事項について事前指導を行い、訓練後には自分の行動についてふり返らせる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・地区別下校の順に注意点を確認したり、日常的な安全指導を継続したりしてきたが、安全に気を付けて登下校できた児童が1年間を通して変化がなかった。(約90%)安全には気を付けているが、自力登校をしていない児童が多いことが体力面などで気になる。 ・事前指導を行った後に避難訓練(不審者・火災・地震)を行ってきた。特に火災に対する訓練では、たてわり班で避難をするなど、児童主体の訓練も行うことができ、9割以上の児童が自分で考えながら避難することができた。また、避難後の指導時間を多く取ったことで、振り返りをもとに実生活に活かそうと思える児童が増えた。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | <ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の内容や、準備に係る時間の見直しを行う。 ・定時退勤日の設定及び掲示物やモニターを活用した意識の向上を図る。 ・メンタルヘルス、サービスの研修とともに働き方改革についても研修を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤推進目録を設定し呼びかけたことにより、毎週全職員は、通常よりも早く退勤する職員が増えた。しかし、「業務の効率化ができたか」の項目では、「あまりできていない」との回答が29%あったことから、引き続き、改善点を検討していく必要がある。 ・感染症対応等特別管理の時間外勤務がなくなった。 ・水曜日の校時運用の変更や学校行事、代休日の設定など、次年度に向けて、効率的な学校運営の基盤を作ることができた。 |

| (2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | 最終評価 | | |
|-----------------------|--|---|---|---------|--|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 達成度(評価) | 実施結果 |
| 〇特別支援教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 〇支援が必要な児童への適切な支援についての全職員による共通理解と実践 | <ul style="list-style-type: none"> 〇年2回、職員に対して意識調査を実施し、特別支援体制が機能していると回答した教員80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画、指導計画を確実に作成し、前期後期で振り返りをして改善をする。 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・月1回の児童理解支援会を実施し、全職員で共通理解と支援にあたる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の意識調査では、特別支援教育が機能していると回答した教員は100%。 ・個別の教育支援計画、指導計画を確実に作成し、前期後期で振り返りをして改善できた。 ・特別支援教育に関する研修会が実施できた。 ・月1回の児童理解支援会を軽重をつけて実施し、全職員で共通理解と支援にあたることができた。 |

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

| | |
|-----------------------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> 学力向上についてはマイプランを共有し、実践した。また、毎週2回、朝の時間に「国語チャレンジ」「算数チャレンジ」を、毎学期末に「漢字フェスタ」「計算フェスタ」の取組を 実践したことにより、基礎的・基本的な学力の定着が図られ、学習状況調査において良い結果が出た。授業力の向上を意識した取組の成果だと捉える。 保護者アンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。 本校児童の課題である表現力の向上、自主的な活動についても、教師が課題を共有し、解決の方策を考え取り組んでいった。来年度は、特別活動の領域において校内研究として取り組み、表現力の向上や話し合い活動の充実など児童が活躍できる場作り、活動内容の検討などを進めていく。 業務改善・教職員の働き方改革の推進については、毎週金曜日の定時退勤推進日など意識化を図った。令和4年度はコロナ対応業務により、超過勤務が多くなった。来年度は、出勤翌日に振り替え休日を取りやすいよう、日曜日出勤日で行事等を設定する。 個に応じた教育、特別支援教育には保護者、学校関係者評価においても高い評価を得ている。児童に寄り添い、全職員で見取り、情報共有することにより今後も、個に応じた支援・指導を充実させていきたい。 ・コミュニティスクール・地域学校一体型教育におけるこれまでの取組が評価され、令和4年度は、文部科学大臣賞を受賞することができた。今後も、地域と連携し、保護者とともに教育活動を行っていくためにも、社会に開かれた教育課程を實踐し、保護者や地域との情報共有、学校の取組の発信などを進めていく必要がある。□ |
|-----------------------|---|